

創世記 45章 1~15節 マタイによる福音書 18章 21~35節

神様とも、人との、も、破れを、抱えな、がら、なら、な、あ、の、び、で、い、し、し、う、の、が、じ、そ、直、て、の、
 生きたちよ愛する様おとし、赦か、とを、お、れ、に、り、ま、ご、人、こ、と、仰、
 様とし、人間、誰、互、の、赦、ら、れ、し、て、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 も、か、い、と、誰、互、の、赦、ら、れ、し、て、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 人、の、つ、が、ゆ、え、赦、し、ら、れ、る、こ、と、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 と、が、て、知、る、し、よ、う、な、こ、と、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 も、人、間、愛、と、赦、し、ら、れ、る、こ、と、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 破、れ、で、あ、る、し、よ、う、な、こ、と、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 を、あ、る、し、よ、う、な、こ、と、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 抱、え、も、密、接、性、を、も、つ、て、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 が、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、

ただ、ペト、ロ、の、イ、エ、ス、様、へ、の、問、い、か、け、に、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 と、イ、エ、ス、様、に、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 困、難、な、こ、と、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 限、度、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 ゆ、え、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 ま、ご、人、こ、と、仰、
 し、き、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 可、能、な、こ、と、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 余、計、に、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 思、い、置、か、れ、て、い、る、こ、と、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 ペ、ト、ロ、の、何、回、赦、し、ら、れ、る、こ、と、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 凶、せ、ず、に、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、

それゆえ、「赦しを語りつつも、赦し
 がない」など、私たちが内から外から
 主の教会を擲すことにもなるのですが、
 も聞こえて、その説明は、教会も罪人の集まりで
 そこです。この教会で、おし、ま、ご、人、こ、と、仰、
 耳あると、間違っては、おし、ま、ご、人、こ、と、仰、
 は、正しく、問、違、つ、て、は、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 たちが罪人であらざるを、おし、ま、ご、人、こ、と、仰、
 矛盾を抱え込まず、おし、ま、ご、人、こ、と、仰、
 明が、い、く、ら、正、し、く、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 訳を、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、

ことにはありません。罪人であるとかの言、
 ことを繰り返す者が、己中心の生き、
 訳れな様に、神様に通ずるも、語、ら、れ、て、い、る、
 ようです。

そのため、人は、最初、か、ら、逃、げ、道、を、設、
 け、イ、エ、ス、に、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 う、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 の、無、意、識、な、こ、と、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 決、め、つ、て、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 言、う、し、よ、う、な、こ、と、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 立、つ、て、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 仰、る、こ、と、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 だ、と、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 エ、ス、様、に、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 だ、と、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 欲、し、く、は、な、い、か、ら、無、理、難、題、と、い、う、こ、と、
 要、求、は、だ、か、ら、こ、の、も、の、だ、と、い、う、こ、と、

ただ、このように、イエス様が私たちに
 に、寄、り、添、い、の、教、え、諭、す、よ、う、に、私、た、ち、は、イ、エ、ス、様、に、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 く、だ、さ、つ、て、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 エ、ス、様、の、思、い、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 は、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 ま、ご、人、こ、と、仰、
 巡、り、を、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 捨、て、去、る、こ、と、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 の、こ、と、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 も、私、た、ち、が、懲、り、ず、に、同、じ、こ、と、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 る、の、は、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 こ、ま、で、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 こ、の、こ、と、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 理、難、題、と、思、え、る、こ、と、を、あ、こ、私、神、様、な、ら、ば、イ、エ、ス、が、私、こ、の、
 方、的、に、求、め、て、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 す。イ、エ、ス、様、に、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 て、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 れ、が、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 の、は、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 の、赦、し、の、中、に、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 して、イ、エ、ス、様、に、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 ま、ご、人、こ、と、仰、
 の、は、イ、エ、ス、様、に、お、し、ま、ご、人、こ、と、仰、
 し、の、中、に、私、た、ち、を、招、こ、う、と、い、う、こ、と、

からで、また、それが神様の御心でもあ
るからです。ですから、そこで、私たちが
かなすべきことは一つです。何一つ条件
付けられてはいないこのイエス様のお言
葉を信じ、ただ従えばいいというこ

では、どうすれば、イエス様の仰るこ
とができるように安んずるかを、私たちが
それには、兄弟姉妹を赦すこと、私たちが
かできないか、それが赦すこと、私たちが
あることに、私たちが赦すこと、私たちが
ます。それは、赦すこと、私たちが
ない、やるやらない、巡りながら
に拘っている問題の本質が、イエス様
返す私たちが、もしかしたら、イエス様
です。求めは、本当は、難しいこと
この求めは、本当は、難しいこと
いのか、もしかしたら、難しいこと
ではなく、本来は、難しいこと
ちが、難しくしてしまっている。実
ころは、そういうところなので、か
と思えます。また、そういうところ
イエス様の声のす方、向きの思
真っ正面から、イエス様の愛を、受
け止める必要が、ある。イエス様の
っ正面から受け止める必要が、ある。

ですから、そのために、私たちが、
イエス様の声の良き通る、この、
様のお顔をしっかりと見ると、この、
場所にお身を置く必要が、ある。こ
は、私たちが、神様の愛を、一
と、それ、今、私たちが、どう
いる教会、神様と、直接、相対
れ、共に、神様と、直接、相対
が、私たちが、神様の愛を、一
は、私たちが、神様の愛を、一
うことです。ですから、神様の愛を、
私たちが、神様の愛を、一
いるわけです。ただ、神様の愛を、
の具体的なイメージが、つかめず、
イエス様と同じように、生かされ、
も、そのイメージが、わいてこ
ために、堂々巡りを繰り返すこと
それが、私たちが、神様の愛を、

愛するということ、抽象的なもの
見方、考え方など、具体的なもの
のです。だから、当然、愛の置か
るところには、具体的なイメージが
ことになりません。ただ、具体的
一つだけ、しかも、人それぞれ、
その感じ方、受け止め方も、同
そのため、ヨセフの家族のよう
ない状況が、そこで生かされて
ます。それゆえ、このイメージの
擦り合わせ、それゆえ、このイ
ただ、思いの深さ、その拘りゆえ

題が入り組み、直ぐに解決が与えられ
るものではない者、性急に答えを待
ので、ヨセフの兄弟、家族のよ
きな過ちを犯すことにもなるので
ですから、赦しを見失った関係性
で現される愛は、細く、歪んだも
り、そのために、また、愛したい、
たい、その思いにしがみつこうと
セフの家族のように絶望を深める
もなるのです。しかし、御言葉が
にし、また、イエス様の無理難題
える、要求が明らかにするよう
うことのできない関係性の中
私たちが、神様の愛であり、イエ
のが、神様の愛であり、イエス
のです。そして、それと同じこと
前、ある老夫婦の仲むつまじい
を拝見し、私は、その中に感じた
ことがありました。

ヨセフとその兄弟たちが和解へと導
れ、本来あるべき家族の姿を取り
が許されたのは、ヨセフが語るよ
様を信じる人々、神の民全員の命
ご自身が支え、その命を命として
とされているからです。今申し
に映し出された老夫婦も、愛と赦
つつも、その願いが叶えられず、
を幾度となく経験されるものでし
ども、神様は、そこで何もな
らせるのではなく、夫婦が夫婦
族が家族として歩み続ける道
さるのが私たちの神様であり、
を導くべく寄り添ってくださ
イエス様というお方であるの
私たちがこのことを必ずや知
のは、神様とイエス様に伴われ
の先が天の御国と、そう決ま
です。

従って、私たちがそのような関わり
に生かされている以上、煮え切ら
巡りを繰り返すことは、やはり赦
ことではないのかもしれませんが、
の関わりの中に置かれ、私たちが
歩み続けるからこそ、神様とイ
と赦しを我がこととして経験し、
家族がそうであったように、必
の愛と赦しを具体的にイメージ
なるのです。私が心引かれた、
むつまじい老夫婦の写真が、こ
体的に現してくれていたように
また、それが、愛と赦しを身に
教会に生きる者の姿であるよう
です。ですから、赦す赦さない
ろに囚われるのではなく、イエ
神様の赦しに生かされているこ
そのイエス様を思い起こしつつ、
新しい歩みを進めて参りたいと思
祈り